

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	白馬村に存在する氷河の観光資源化に向けた事業
事業主体 (連絡先)	白馬村 (教育委員会事務局生涯学習スポーツ課) 0261-85-0726 / gakushu@vill.hakuba.lg.jp
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,924,982 円 (うち支援金: 2,640,000 円)

事業内容

世界的にも貴重な資源である氷河を観光資源として活用するため、唐松沢氷河に加えて、氷河の可能性が高い不帰沢・杓子沢・白馬沢の3つの雪渓について調査を行い、新たな観光資源としての活用可能性を探る。

1. 観光活用

氷河展望ツアーのルート検討

氷河ロゴを活用した商品開発・ブランディング検討

2. 氷河調査と環境教育

不帰沢と杓子沢の現地調査を行い氷厚や流動状況を把握するとともに、アイスコアの掘削・解析により形成メカニズムを探る。

報告会を開催し、氷河の価値や魅力を事業者や住民など多くの方に伝え、興味や関心を持ってもらう。



【杓子沢雪渓】

【目標・ねらい】

- ① 展望ツアールートのご検討
- ② ロゴを活用した商品開発
- ③ 氷河の基礎資料収集
- ④ 報告会等による情報発信

事業効果

氷河展望ツアーとして2ルートを選定し、眺望スポット等を検討・把握した。

氷河ロゴの活用に向け、観光関連の各種会議等で情報共有に努めた。

現地調査・セスナ空撮等により氷河の基礎的な情報を収集し、杓子沢と不帰沢については氷河であることを証するデータを取得することができた。

約120人が参加した報告会や文化祭等のイベント、ケーブルテレビ等で氷河調査の結果を周知し、北アルプスの氷河の価値について学びを深めた。

※自己評価【 B 】

【理由】

当初予定していた事業を実施し、想定していた効果を得ることができたため。

今後の取り組み

展望ツアーの実施に向け、関係機関との調整を行い、コース整備等を検討する。

ロゴを活用した商品開発やブランディングを検討する。

継続的に調査を行い、質量収支観測や形成過程を解析することで、気候変動等のモニタリング指標として活用するとともに、山岳観光資源・地域教育素材としての価値向上に努める。

地域資源の一つとして、社会教育(公民館講座等)や学校教育にも取り入れられるよう、副読本等の資料作成について検討する。